

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 17 年 8 月 11 日 (2005.8.11)

【公開番号】特開 2003-210812 (P2003-210812A)  
 【公開日】平成 15 年 7 月 29 日 (2003.7.29)  
 【出願番号】特願 2002-13686 (P2002-13686)  
 【国際特許分類第 7 版】

A 6 3 F 7/02

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 5 0 Z

A 6 3 F 7/02 3 2 6 C

A 6 3 F 7/02 3 2 7 A

【手続補正書】  
 【提出日】平成 17 年 1 月 21 日 (2005.1.21)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【書類名】明細書  
 【発明の名称】遊技機  
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 前面扉と、その前面扉を施錠する施錠装置と、その施錠装置による施錠状態を解除操作するアクセス部を覆うためのカバー材とを備え、前記カバー材は、前面扉の開放時に突出状態とされる開放表示材として機能することを特徴とする遊技機。

【請求項 2】 前面扉と、その前面扉を施錠する施錠装置と、その施錠装置による施錠状態を解除操作するアクセス部を覆うためのカバー材とを備え、前記カバー材は、前面扉の開放時に突出状態とされる開放表示材として機能するよう、該カバー材によって前記アクセス部を覆い隠す閉位置と、該カバー材が前面扉の前方に突出状態となって前記アクセス部を露出させる開位置との間で切り替え配置可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

【請求項 3】 前記カバー材は回動支持機構を介して回動可能に設けられ、前記施錠装置のアクセス部はその回動支持機構の近傍に配置されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の遊技機。

【請求項 4】 前記カバー材は長尺な部材からなると共に、その長手方向基端部において前記回動支持機構に連結されていることを特徴とする請求項 3 に記載の遊技機。

【請求項 5】 前記遊技機は、カバー材の開閉状況を検知する検知手段と、その検知手段によってカバー材の開放が検知されたときに発光する発光手段とを更に備え、その発光手段が長尺なカバー材の長手方向先端部又はその近傍に設けられていることを特徴とする請求項 1 ないし 4 のいずれかに記載の遊技機。

【請求項 6】 前面扉及びその前面扉を施錠する施錠装置を備えた遊技機であって、施錠装置用のカバー材を動かす第 1 の操作と、施錠装置の施錠を解除する第 2 の操作とを経て、前面扉が開放可能となることを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、遊技機の前面に前面扉を備えた遊技機に関する。

【0002】

**【従来の技術】**

パチンコ機等の遊技機では、内部を日常的に保守点検する必要から、遊技機の前面には前面扉（前面枠ともいう）が開閉可能に設けられている。店員以外の者が無断で前面扉を開放することができないようにするため、一般に前面扉には、施錠装置が設けられている。

**【0003】****【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら、従来の遊技機では、施錠装置の鍵穴が前面扉の表面に露出しているという事情もあって、不正な意図を持った者が不正に施錠を解除して前面扉を開け、遊技機の内部機構に細工（不正行為）を施すようなこともあり得た。また、前面扉を不正開放する場合も、例えば周囲を複数人で取り囲み、前面扉の開放を目立たなくする等の巧妙な手口も考えられる。

**【0004】**

本発明はかかる事情に鑑みてなされたものである。本発明の目的は、前面扉の開放を目立たせることで防犯性を高めた遊技機を提供することにある。

**【0005】****【課題を解決するための手段】**

本欄では各請求項に記載の発明のほかに、本発明の更に好ましい態様や追加的構成要件についても列挙し、必要に応じて作用等に関する簡単な注釈を加える。

**【0006】**

手段1．前面扉と、その前面扉の開放時には突出状態とされる開放表示材とを備えたことを特徴とする遊技機。

**【0007】**

手段1によれば、前面扉の開放時には開放表示材が突出状態となり、そのことによって前面扉が開いていることがよく目立つ。その結果、前面扉の不正開放がしづらくなり、防犯性が高められる。

**【0008】**

なお、手段1～手段12において、「前面扉」とは、遊技機の前面に設けられた扉に類する可動物を意味するものであり、いわゆる内枠やガラス枠も前面扉の範疇に含まれる。

**【0009】**

手段2．前記前面扉は、前記開放表示材を非突出状態から突出状態にすること無くして開放操作をすることができない設計となっていることを特徴とする手段1に記載の遊技機。

**【0010】**

手段2によれば、前面扉を開放するためには、それに先んじて開放表示材を非突出状態から突出状態にすることが必要となる。このため、前面扉の開放時には開放表示材が必然的に突出状態となり、前面扉が開いていることがよく目立ち、防犯性が高められる。

**【0011】**

手段3．前記開放表示材は長尺な部材からなると共に、その長手方向基端部において前面扉に回動可能に取り付けられていることを特徴とする手段1又は2に記載の遊技機。

**【0012】**

手段3によれば、前面扉の閉塞時には長尺な部材からなる開放表示材を前面扉の表面に沿わせておく（又は前面扉の内部に収納しておく）ことで非突出状態とする一方、前面扉の開放時には、開放表示材を回動させてその長手方向先端部を前面扉の表面から離れた位置に配置することで、開放表示材をよく目立つ突出状態とできる。従って、前面扉の不正開放がしづらくなり防犯性が高められる。

**【0013】**

手段4．前記遊技機は、前記開放表示材の突出又は非突出状態を検知する検知手段と、その検知手段によって開放表示材の突出が検知されたときに発光する発光手段とを更に備えてなる手段1～3のいずれかに記載の遊技機。

## 【 0 0 1 4 】

手段 4 によれば、検知手段によって開放表示材の突出が検知されると発光手段が発光するため、突出状態にある開放表示材が更によく目立ち、防犯性が高められる。なお、この手段 4 において「前記発光手段が開放表示材に設けられていること」は好ましく、「前記発光手段が、長尺な部材からなる開放表示材の長手方向先端部又はその近傍に設けられていること」は更に好ましい。

## 【 0 0 1 5 】

手段 5 . 前面扉と、その前面扉用の施錠装置と、その施錠装置のアクセス部を覆うためのカバー材とを備え、前記カバー材は、前面扉の開放時に突出状態とされる開放表示材として機能することを特徴とする遊技機。

## 【 0 0 1 6 】

手段 5 によれば、遊技機には、前面扉用施錠装置のアクセス部を覆うカバー材を設けているので、その施錠装置のアクセス部に何らかの働きかけをする場合には、カバー材を移動させる操作が必要になる。加えて、前面扉の開放時には開放表示材としてのカバー材が突出状態となり、そのことにより前面扉が開いていることがよく目立つ。それ故、従来の遊技機に比べて施錠装置に対し不正行為を働くことが困難になり、防犯性が高められる。

## 【 0 0 1 7 】

手段 6 . 前記開放表示材としてのカバー材は、該カバー材によって前記アクセス部を覆い隠す閉位置と、該カバー材が前面扉の前方に突出状態となって前記アクセス部を露出させる開位置との間で切り替え配置可能に構成されていることを特徴とする手段 5 に記載の遊技機。

## 【 0 0 1 8 】

手段 6 によれば、前面扉用施錠装置のアクセス部を露出させるためにカバー材を開位置に配置したとき、そのカバー材は前面扉の前方に突出状態となる。前面扉の前方に突出したカバー材は非常に目立つため、カバー材が開かれてアクセス部が露出状態にあることが周囲の誰にも一目でわかる。故に、施錠装置に対し不正行為を働くことが困難になり、防犯性が高められる。

## 【 0 0 1 9 】

手段 7 . 前記カバー材は回動支持機構を介して回動可能に設けられ、前記施錠装置のアクセス部はその回動支持機構の近傍に配置されていることを特徴とする手段 5 又は 6 に記載の遊技機。

## 【 0 0 2 0 】

手段 7 によれば、施錠装置のアクセス部は回動支持機構の近傍に位置するため、そのアクセス部にアクセスするためには、回動支持機構を中心としてカバー材を大きく回動させる必要がある。カバー材を大きく回動させると、カバー材が開放状態にあることがよく目立ち、不正な意図を持った者が施錠装置に不正行為を働くことが困難になる。

## 【 0 0 2 1 】

手段 8 . 前記カバー材は長尺な部材からなると共に、その長手方向基端部において前記回動支持機構に連結されていることを特徴とする手段 7 に記載の遊技機。

## 【 0 0 2 2 】

手段 8 によれば、長尺なカバー材の長手方向基端部が回動支持機構に連結されているため、施錠装置のアクセス部はカバー材の長手方向基端部の近傍に位置する。故に、施錠装置のアクセス部にアクセスするためには、長尺なカバー材を大きく振り回して、回動後のカバー材の長手方向先端部を前面扉から遠く離れた位置に配置する必要がある。このため、カバー材が開放状態にあることがよく目立ち、不正な意図を持った者が施錠装置に不正行為を働くことが困難になる。

## 【 0 0 2 3 】

手段 9 . 前記アクセス部は鍵穴であることを特徴とする手段 5 ~ 8 のいずれかに記載の遊技機。

## 【 0 0 2 4 】

手段 9 によれば、施錠装置のアクセス部としての鍵穴を覆うカバー材が、前面扉の開放時に突出状態とされる開放表示材として機能するので、従来の遊技機に比べて施錠装置の鍵穴に対し不正行為を働くことが困難になり、防犯性が高められる。

【 0 0 2 5 】

手段 10 . 前記カバー材には、該カバー材の開閉動作をロックするためのロック手段が設けられている手段 5 ~ 9 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 2 6 】

手段 10 によれば、閉状態のカバー材を開ける操作をする際には、それに先んじてロック手段によるロックを解除する必要がある。このため、不正な意図を持った者が施錠装置に不正行為を働くことが更に困難になり、遊技機の防犯性能が更に高められる。尚、前記ロック手段としては、カバー材用の施錠装置を例示することができる。

【 0 0 2 7 】

手段 11 . 前記遊技機は、カバー材の開閉状況を検知する検知手段と、その検知手段によってカバー材の開放が検知されたときに発光する発光手段とを更に備えていることを特徴とする手段 5 ~ 10 のいずれかに記載の遊技機。

【 0 0 2 8 】

手段 11 によれば、検知手段によってカバー材の開放が検知されると発光手段が発光するため、カバー材が開放状態にあることがよく目立つ。このため、不正な意図を持った者が施錠装置に不正行為を働くことが困難になり、遊技機の防犯性能が高められる。

【 0 0 2 9 】

手段 12 . 前面扉及びその前面扉用の施錠装置を備えた遊技機であって、施錠装置用のカバー材を動かす第 1 の操作と、施錠装置の施錠を解除する第 2 の操作とを経て、前面扉が開放可能となることを特徴とする遊技機。

【 0 0 3 0 】

手段 12 によれば、第 1 及び第 2 の操作という二段階の操作を経て、ようやく前面扉が開放可能となるため、従来の遊技機に比べて前面扉用の施錠装置に対し不正行為を働くことが困難になり、防犯性が高められる。

【 0 0 3 1 】

その他の手段：前記手段 6 ~ 11 において、「前面扉が遊技機本体に対して完全に閉じた状態でなければ、開位置にあるカバー材を閉位置に戻すことができないような回動規制機構を前記カバー材に作動連結すること」は好ましい。また、前記手段 11 において「前記発光手段がカバー材に設けられていること」は好ましく、「前記発光手段が長尺なカバー材の長手方向先端部又はその近傍に設けられていること」は更に好ましい。

【 0 0 3 2 】

【 発明の実施の形態 】

以下に、本発明をパチンコ機に具体化した一実施形態を図面を参照して説明する。図 1 ~ 図 3 に示すように、パチンコ機は少なくとも前面枠 11、遊技盤 12 及び外枠 13 を備えている。遊技盤 12 は前面枠 11 の内側（裏側）に組み付けられており、前面枠 11 と遊技盤 12 とが一体化して前面扉を構成している。前面枠 11 は外枠 13 に対してヒンジ機構 14 を介して回動可能に取り付けられており、パチンコ機の運転時には、前面枠 11 の一部が外枠 13 内に収納される格好で前面扉（11, 12）が閉じられる。

【 0 0 3 3 】

なお、前面枠 11 及び遊技盤 12 によって構成されるパチンコ機の正面は、その略上半部を占めると共に手前にガラス板（図示略）が嵌め込まれた遊技盤領域と、略下半部を占めると共に前面枠 11 に造作された操作領域とに区分される。遊技盤領域には、表示装置、大小様々の入賞口、風車、ランプ、スピーカ、その他の遊技性を高めるための器具や装置（いずれも図示略）が設けられている。他方、操作領域には、弾発のための発射操作ハンドル 15、打球供給皿としての上受け皿 16、余剰玉受皿としての下受け皿 17、その他の器具や装置が設けられている。

【 0 0 3 4 】

図 1 及び図 2 に示すように、前面枠 11 の正面右上隅付近には、前面扉用施錠装置の鍵穴 18 が設けられている。アクセス部としての鍵穴 18 にキー（鍵）を差し込んで操作することで、前面扉の施錠を解除し前面扉を開くことができる。前面枠 11 上であって鍵穴 18 の直上には回動支持機構としての蝶番 19 が設けられ、この蝶番 19 を介して、開放表示材としてのカバー材 20 が回動可能に取り付けられている。

#### 【0035】

カバー材 20 は、やや厚みがあり且つ縦（上下方向）に長尺な板状の部材からなり、その上端部（長手方向基端部）が蝶番 19 に連結されている。カバー材 20 は、その裏面が前面枠 11 の表面に接触して略平行になる閉位置（図 1 参照）と、該カバー材 20 が前面枠 11 の表面に対してほぼ直角に突出又は起立した状態となる開位置（図 2 参照）との間で切替え配置可能となっている（図 3 参照）。尚、蝶番 19 は、突出状態（又は起立状態）にある開位置のカバー材 20 をその突出状態で保持できるよう設計されている。

#### 【0036】

図 1 に示すようにカバー材 20 が閉位置（通常時位置）にあるとき、施錠装置の鍵穴 18 はカバー材 20 によって完全に覆い隠され、その鍵穴 18 に対してキーを差し込むことも触れることもできない（即ちアクセス不能）。他方、図 2 及び図 3 に示すようにカバー材 20 が開位置（非通常時位置）に配置されると、カバー材 20 が前面枠 11 に対してほぼ直角に起立し、鍵穴 18 に対してキーを差し込むことが可能となる（即ちアクセス可能）。尚、カバー材 20 が長尺な部材であり、且つ、カバー材 20 の回動中心軸に相当する蝶番 19 の近傍に鍵穴 18 が配置されているため、当該カバー材 20 を前記閉位置と開位置との間の中途半端な位置に配置した状態では、鍵穴 18 に対してキーを確実に差し込むことはできない。つまり、このパチンコ機は、カバー材 20 を図 2 及び図 3 に示す開位置（突出状態）に配置しない限り、鍵穴 18 にキーを差し込むことができない設計となっている。

#### 【0037】

カバー材 20 の下端部（長手方向先端部）には、当該カバー材 20 用施錠装置の鍵穴 21 が設けられている。このカバー材用施錠装置は、カバー材 20 を前記閉位置に固定して閉位置から開位置への開放動作を禁ずるためのロック手段である。このため、カバー材用施錠装置に対応する第 2 のキーを鍵穴 21 に差し込んで施錠を解除しない限り、カバー材 20 を開いて前面扉用施錠装置の鍵穴 18 を露出させることはできない。

#### 【0038】

更に各図に示すように、カバー材 20 には、発光手段としてのランプ 22 が設けられている。このランプ 22 は、カバー材 20 の長手方向先端部又はその近傍（先端部寄り位置）に位置することが好ましい。他方、前面枠 11 の右端部中程には、カバー材 20 の開閉状況（突出非突出状況）を検知する検知手段としての開閉センサ 23（例えば接点スイッチ）が設置されている。前記ランプ 22 と開閉センサ 23 とは電氣的に接続されており、開閉センサ 23 が検知したカバー材 20 の開閉状況に応じてランプ 22 の点灯状態が切り替えられる。具体的には、カバー材 20 が閉位置にある場合にはランプ 22 は消灯される。これに対し、カバー材 20 が閉位置以外の位置（例えば開位置）にある場合にはランプ 22 は点灯される。このときのランプ 22 の点灯態様は、単純点灯又は点滅のいずれでもよい。あるいは、ランプ 22 をいわゆるパトライトで構成してもよい。

#### 【0039】

（効果）

本実施形態によれば以下のような効果を得ることができる。前面扉用施錠装置の鍵穴 18 にキーを差し込んで施錠を解除するには、先ず、閉位置にあるカバー材 20 を開位置に切り替え配置する必要があるため、従来の遊技機に比べて施錠装置の鍵穴 18 に対し不正行為を働くことが難しく、防犯性能に優れている。特にカバー材 20 を開位置に配置したとき、当該カバー材 20 は前面扉の前方に突出状態（起立状態）となる。この状態は非常に目立ち、カバー材 20 が開けられて鍵穴 18 が露出した状態にあることが周囲の誰にも一目でわかり、悪意を持った者が不正行為を働くことが困難になる。

## 【 0 0 4 0 】

蝶番 1 9 に連結されたカバー材 2 0 は比較的長尺であり、且つその蝶番 1 9 の近傍に前面扉用施錠装置の鍵穴 1 8 が位置しているため、鍵穴 1 8 にキーを差し込むためには、カバー材 2 0 を大きく回動させてカバー材先端部を前面扉から遠く離れた位置（即ち開位置）に配置する必要がある。このため、カバー材 2 0 が開放状態にあること（ひいては前面扉が開放状態にあること）がよく目立ち、悪意を持った者が前面扉を不正開放することが困難になる。

## 【 0 0 4 1 】

カバー材 2 0 自体に専用の施錠装置（鍵穴 2 1 等で構成）を付加し、その施錠を解除しないとカバー材 2 0 を開けられないようにしたことで二重の施錠が実現し、パチンコ機の防犯性能が高まる。また、カバー材 2 0 が閉位置以外の位置にある場合にはランプ 2 2 が点灯してよく目立つようにしたので、不正行為を未然に防止することができる。

## 【 0 0 4 2 】

（変更例）

本発明の実施形態を以下のように変更してもよい。

・上記実施形態では、アクセス部としての鍵穴にキーを差し込むタイプの施錠装置を例示したが、電波や赤外線を利用した無線方式の施錠装置や、磁気カードやＩＣカード等の電氣的又は磁氣的な鍵手段を用いる施錠装置で置き換えてもよい。その場合、無線方式の施錠装置においては、電波や赤外線による信号を受信する装置又は部位が施錠装置のアクセス部となる。また、電氣的又は磁氣的な鍵手段を用いた施錠装置においては、磁気カードやＩＣカード等の読取装置又は読取部が施錠装置のアクセス部となる。

## 【 0 0 4 3 】

・カバー材 2 0 用の施錠装置（及びその鍵穴 2 1 ）を設けることは必須ではなく、カバー材 2 0 用の施錠装置は無くてもよい。また、前記第 2 のキーを使用するカバー材 2 0 用の施錠装置（及びその鍵穴 2 1 ）に代えて、キーを使用しない押しボタン式のロック手段をカバー材 2 0 に設置してもよい。

## 【 0 0 4 4 】

・開閉センサ 2 3 によりカバー材 2 0 が閉位置以外の位置（例えば開位置）にあることを検知した場合に、前記ランプ 2 2 を点灯することに代えて、あるいは前記ランプ 2 2 を点灯することと共に、カバー材 2 0 が完全に閉じていないことを知らせる警告音をスピーカから発生するようにしてもよい。

## 【 0 0 4 5 】

・前面扉（ 1 1 , 1 2 ）が外枠 1 3 に対して完全に閉じた状態でなければ、開位置で起立状態にあるカバー材 2 0 を閉位置に戻すことができないような回動規制機構を蝶番 1 9 を介してカバー材 2 0 に作動連結してもよい。この構成によれば、前面扉が少しでも開いていれば、カバー材 2 0 が開位置で突出状態（起立状態）となることを強制されるため、起立したカバー材 2 0 によって、前面扉が開かれていることが周囲に知らされる。

## 【 0 0 4 6 】

・本発明の適用対象はパチンコ機に限定されるものではなく、その他の遊技機（例えばスロットマシン）に適用されてもよい。

## 【 0 0 4 7 】

## 【発明の効果】

以上詳述したように、請求項 1 及び 2 の遊技機によれば、前面扉の開放を目立たせることで防犯性を高めることができる。請求項 3 の遊技機によれば、二段階操作を経て前面扉を開放可能とすることで防犯性を高めることができる

## 【図面の簡単な説明】

【図 1】遊技機としてのパチンコ機（カバー材閉状態）の正面図。

【図 2】遊技機としてのパチンコ機（カバー材開状態）の正面図。

【図 3】遊技機としてのパチンコ機（カバー材開状態）の右側面図。

【符号の説明】

１１...前面枠、１２...遊技盤（１１及び１２は前面扉を構成する）、１８...前面扉用施錠装置の鍵穴（アクセス部）、１９...蝶番（回動支持機構）、２０...カバー材（開放表示材）、２１...カバー材施錠装置の鍵穴（ロック手段）、２２...ランプ（発光手段）、２３...開閉センサ（検知手段）。